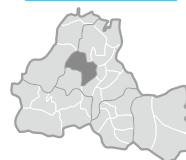


五荘地区 (豊岡地域)



五荘地区は14地区あります。都市化した地区と中山間地に分かれていますが、都市化した地域では山沿いに小面積の田畑が耕作されています。小さい河川の流水を利用しており、給水作業にも大変苦労されています。また、山間地域は小区画の田が多く、農業機械も大型化できず、それでも一通り揃えようと高価となり、「この機械が壊れたら農業をやめる」という声を何度も聞きます。遊休農地が増えないようにと高齢の方が頑張っている間に、行政には小規模農家への支援が届くようお願いしたいと思っています。

また、近頃は、イノシシ、シカの被害もさることながら、サルの被害が大きく、楽しみで作っている家庭菜園さえも見切りをつける人が多くなっています。サル追いの電気柵に補助金があるものの、維持管理が必要なため、高齢の方や女性の方には、なかなか活用されないのが現状です。



鞍留推進委員



石原農業委員

作物を作らなくなると、田畑や農業への関心も低くなるので、鳥獣害対策にも今まで以上に力を入れていかなければならないと思います。豊かな自然が守られ、楽しみのある農業ができるよう、協力していきたいと思っています。

(推進委員 鞍留 眞司)



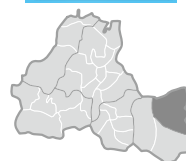
防護柵で囲われた田畑



山間の田畑

(農地利用最適化推進活動 五荘)

資母地区 (但東地域)



但東町の北東部にある資母地区は、出合から丹後方面へ約8キロメートルから12キロメートルの山間地域です。当地域では水稲やピーマン、シルクコーン、山ウド、大豆、ネギ、ソバなどを栽培しています。近年若い新規就農者が年々増え、遊休農地の活用が図られており、このような姿を見ると、こちらも励みになります。中でも但馬の特産品であるピーマンは、栽培から販売までの流れが構築されており、先輩農家に相談することもできることから、今後もピーマン作りの仲間が増えていくことを期待したいと思っています。

日頃は農地パトロールで、遊休農地の確認等を行い、地域の方から困りごとをお聞きする機会もあります。が、解決につながらないこともあるのが現状です。山間地では、作業効率の低さと鳥獣害の深刻化、さらには、管理する農業者の高齢化や離農などが重なった結果、耕作放棄地が増加しています。



松本推進委員



早水農業委員

このような中でも圃場整備田に関しては多面的機能支払交付金事業に取り組み、地域の輪で困難を乗り越え、ふるさとの景観を維持していきたいと思っています。

今回、地域計画の策定にあたり、遊休農地と離農農家の耕作地が課題となり、隣接する認定農業者へ相談し、現地確認を行いました。その後、区の農業者間で調整し、14ヘクタールの農地を集積し、預けることになりました。

地域農業の最大の課題は農家の高齢化と担い手不足です。今後、地域農業を守るためには、土地利用型を目的とした、水稲主体の農業スクール生の育成、大型機械導入の支援が求められます。そのため、農業者の声を聞き、農地の管理利用促進につなげていきたいと思っています。

(推進委員 松本 雅浩)



資母地区の農地の様子
(農地利用最適化推進活動 資母)

鳥取県へ視察研修

株式会社 大上農園 倉吉市農業委員会

農業委員 田中 竹治
農地利用最適化推進委員 橋本 義明

昨年11月20日・21日に、委員26名の参加により視察研修を行いました。1日目は倉吉市で苗作りから販売・運送までを手がける「株式会社大上農園」にて施設見学を行い、白ネギの周年栽培について研修を受けました。2日目は「倉吉市農業委員会」で意見交換を行いました。

《株式会社大上農園（倉吉市）訪問研修》

平成27年に葉タバコ生産から撤退後、白ネギ生産へ転換し、株式会社大上農園を設立されました。生産物を白ネギ1本に絞り、生産面積約30ヘクタールで周年栽培をされている社員数33名のグループ会社です。

ネギ生産においては、まず、業務の効率化に対する社員の意識改革を行い、機械の活用で勘や経験を可視化し、高い技術力の標準化

による生産性の向上に努めておられます。

次に、営農支援ツール「アグリノート」を活用し、気候変動対応や圃場管理と各作業の進捗状況进行管理しています。「アグリノート」から抽出した実績データを基に、次期作の品種や施肥設計の変更検討に活用するなど、徹底したデータ管理をしておられます。

土作りにおいては、土壤改良に取り組まれ、化成肥料から徐々に有機肥料にシフトし、将来的にはネギ屑を堆肥化し、「循環型農業」を目指しているそうです。

常に新しいものを創造し、データの活用による戦略的な農業経営を確立していました。

《倉吉市農業委員会との意見交換会》

「倉吉市農業委員会」は、農業委員19人、農地利用最適化推進委員9人で構成され、女性委員が5人活躍されています。近年は農地利用の最適化活動に力を注いでいるとのこと、遊休農地の再生の

取り組みを紹介されました。遊休農地は全国的にも大きな問題です。豊岡市でも農業委員及び推進委員で、日々・一斉のパトロールを行い、利用意向調査後、各地権者へ対応をお願いしていますが、なかなか改善しないのが現状です。

倉吉市でも、年1回農地パトロールを実施されていますが、豊岡市との違いは、市長又は副市長、市農政課、関係団体と合同でパトロールを実施し、市全体の取り組みとして実施していることを広く市民へも広報しておられるところです。また、市単独事業で遊休農地再生にかかる予算を計上し、遊休農地を3年以上活用することを条件として、地権者にではなく、担い手を対象に助成されます。さらに、交付対象先が耕作できなくなった場合は、農地中間管理事業の活用を呼びかけ、再び遊休農地にならないよう取り組んだ結果、18年間で61・5ヘクタールの削減実績があるとの説明を受けました。

《研修を通して感じたこと》

他市の取り組みを知ることにより、今後の活動の大きなヒントを得ることもあります。倉吉市の取り組みを、そのまま豊岡市に取り入れることは難しいかもしれませんが、遊休農地の解消を行政全体の取り組み

みとして実施することで、少しでも多くの市民に農地の現状を知っていただく機会が生まれます。

今後ますます高齢化が進み、農業の担い手が不足すると思われる。今回の研修を通して、若者にも魅力ある農業に変えていかなければならないと感じました。



倉吉市農業委員会との意見交換



株式会社大上農園の施設見学